

一九八二年十一月二十八日、韓国・ソウルで開かれた「第十回科学の統一に関する国際会議」(ICUS)で、世界基督教徒・神學協会の創始者・文鮮明師が提唱した「国際・イウェイ・プロジェクト」。世界の偉大平和の構築に寄与するこの壮大な計画も、今年、提唱から十年を迎える。この計画の環を行われてきた「日韓・ソウルの調査・研究」は、陸上・海上両部門の概略調査(概観)を終えて新しい段階に入った。昨年十一月一日には、足早に英仏を結ぶユーロトンネルが貫通し、二国間プロジェクトの成功が現実のものとなってきている。夢のプロジェクト、実現に向けての機運は大きく広がっている。

盛り上がる建設ムード

先月七日、日韓トンネルの實現を推進する民間団体「日韓トンネル研究会」の第九回通達総会が東京都内のホテルで開催された。

この中で同研究会の佐々保雄会長(北海道大学名誉教授)は、「先づ、韓国の盧泰愚大統領が「日韓トンネル」のごとくして触れていただき、日本でも政府の上層部が関心をもち始めた。いよいよこのプロジェクトも實現に近づいたと

あいつ。次いで、樺野英太郎同研究会理事長(国際ハイウェイ建設事業団理事長)は、「国際ハイウェイ構想は単なる土木事業ではなく、世界平和實現の目途。今では中国などにも受け入れられる。『さび、わが国を通るユーレシア大陸横断道路を造ってほしい』との要請を『さび、わが国は万民の願ひ。国民が一緒にならぬの大事業を成して進んでいこう』方向に進めていき、十年間の成果を土台として、今や新



国会議員、学者の約300人が出席して開かれた日韓トンネル研究会第九回通達総会(先月七日、都内のホテルで)

政府も関心持ち始めた

日韓トンネル研究会会長 佐々 保雄

このたび、日韓トンネル研究会の第九回通達総会を開催いたしました。大勢の方々ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

今から十年前に文鮮明師が韓国・ソウルにおける第十回「科学の統一」に関する国際会議の席上、世界



をハイウェイで連結して人類平和の礎を築こう、という国際ハイウェイ構想を提唱されました。

さういふ時、その会議に出席しておられた西脇英二郎氏から「後日、お前、書面をお送りしたのだから、今度は日韓をあらなにか」といふお話を伺いました。

研究会関係者のあいさつ

に於て、「日韓海底トンネル構想を取り上げ、さういふプロジェクトに対し、政府もいよいよ関心をもち始めた感じがいたしました。今後とも皆さま方の厚い支援、ご鞭撻(へんなん)をのぞいてお願いいたします。

世界平和への具体的な方法

日韓トンネル研究会理事長 樺野 玄太郎

今日まで、多くの方々のご協力によりまして、多数の調査研究がなされました。また、東京・福岡・釜山(韓国)などで会議などが開催され、普果な活動が行ってまいりました。



るに至りましたことを感謝申し上げます。

国際ハイウェイ構想は、単なる土木事業にとどまるものではなく、これを通じて世界平和を實現するのが目的です。日本と韓国の間、トンネルができませんと、韓国が非常に近くなり、経済や文化の交流が頻繁になつて、二国間に平和が生まれてくることは確実です。さらに、今までの経過からいっても、中国が非常に大

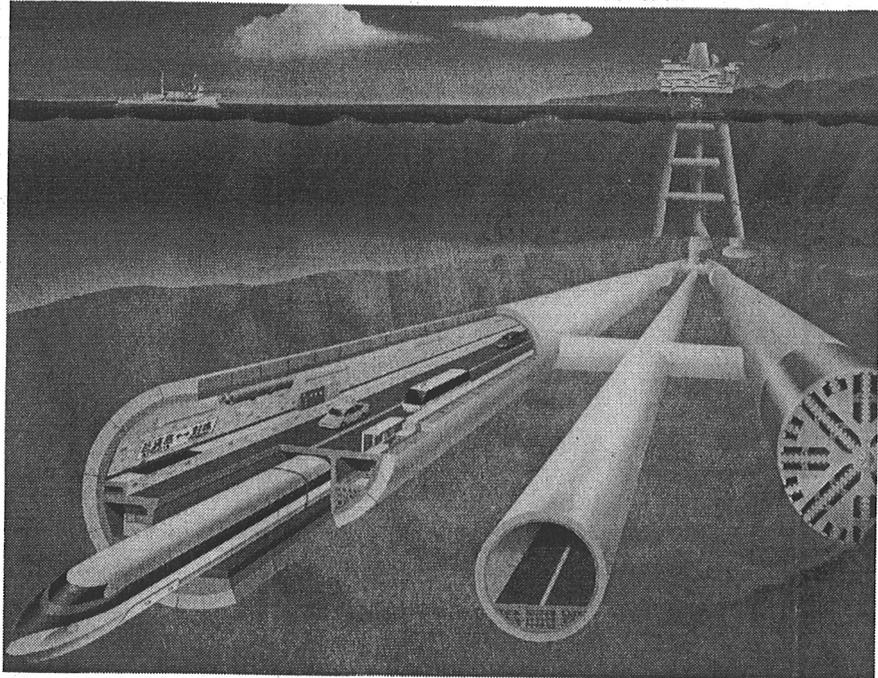
きな関心を示して下さいます。連も「さび、わが国を通るユーレシア横断道路を造ってほしい」と要請してきています。

こうしたことから私たちは、道路の建設を通じて世界平和を確保するというのが極めて具体的な方法であるとの、より一層の確信を持つに至りました。残る北朝鮮の問題が解決すれば、極東アジアは一つになることができるでしょう。さらにインド、中東、欧州へと高速道路が延びていけば、文字通りアジア、そして世界の平和を達成するための突破口となるでしょう。これからの方針としては、国民のたれでもが参加できる、より大きな運動としてこの計画を進めていきたいと思っております。

しい段階に入ったと添へた。

国際ハイウェイ
プロジェクト

関心示す両国鉄道労組



人工島を利用した日韓トンネル建設と完成予想図

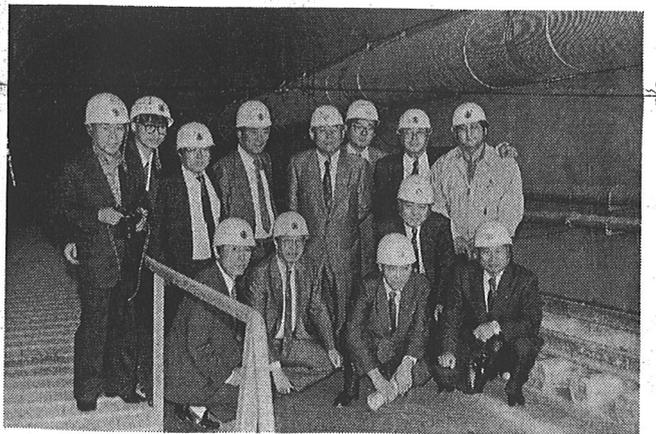
- 日韓トンネル研究会**
＜平成2、3年の活動＞
- 平成2年
 - 4月 「花の万博」(大阪)で国際ハイウェイ紹介のアニメーション「ユーラシア大陸20000kmの旅」を上映(9月まで)
 - 5月 東京第8回総会および報告会
 - 6月 第4回中国ハイウェイ調査特別委員会
 - 7月 第2次中国ハイウェイ予備調査団の派遣九州支部第8回総会および報告会(福岡)
 - 8月 斜めボーリング開始(鎮西町、名護屋調査斜坑内)
 - 第6回ハイウェイ調査特別委員会
 - 9月 国際トンネル協会(ITA)の年次総会で「日韓トンネル構想」を発表(中国・成都)
 - 第1回中国ハイウェイ訪日代表団来日
 - 第3回国際海洋水産専門家会議参加(中国・北京)
 - 第2次中国ハイウェイ予備調査に対する日中合同報告会(中国・北京)
 - 12月 中国海洋水産科学者訪日団来日
 - 平成3年
 - 2月 第14回理事会
 - 韓国土木・土質技術者調査団来日
 - 九州支部第12回理事会
 - 4月 JR総連と韓国鉄道労働組合幹部の日韓トンネル調査斜坑現場視察
 - 5月 東京第15回理事会
 - 6月 東京第9回通常総会および報告会
 - 7月 九州支部第9回通常総会および報告会

調査斜坑見学し、交流 組織整備促す意見も

八年前にわたる幅広い調査・研究を行ってきた同プロジェクトは、研究会関係者が語ったように、政府や関係諸国の本意が、いよいよ夢の実現に向けて新たな段階を迎えた。

折しも、欧州では英国とフランスが「グレートバール海峽トンネル」が昨年十二月一日に貫通し、一九九三年の開業に向け着々と準備が整えられている。関係者の間では、英仏の次いで「日韓トンネル」が「アジア」の建設のムードが一気に盛り

上がった。それにより日韓両国の交流も頻りに行われ、



日韓トンネルの調査斜坑掘削現場を視察する日韓鉄道労組代表＝4月15日、佐賀県鎮西町で

JR総連が 正式議題に

また、四月十四日にはJR総連の福岡福太郎委員長、韓国全国鉄道労働組合の陳致聖・国際部長をはじめとする日韓の鉄道労組代表十人(各六人)が鎮西町の調査斜坑を見学した。これは昨年、韓国側がJR総連・JR東海を招待した答礼として、日本側が韓国労組を招き、その中で実現したもの。

JR総連は韓国・北朝鮮を通じて「モノクワ」に至る平和列車「構想運動方針」として掲げており、参加した福岡委員長は「雄大な計画で感動した。今後モノクワを持って、韓国開港地をめぐりたい」と初めて見る斜坑現場を前に、日韓トンネル実現に対する意欲を示した。

一方、陳国際部長の感想も「企画を聞いた時は難しいと思ったが、実際に見て奇跡が起っていると信じている」と力強い。

今回の交流は、事務レベルでの活動ができるよう「早い段階で日韓両国の労組を中心とした委員会の設立」と、日韓一体となった組織の早急な整備を促す意見も出、同プロジェクトに対する意欲が強く感じられた。

とりわけ、このプロジェクトに大きな関心を寄せている韓国労組は、この日韓トンネルの執行部でも日韓トンネルを正式議題として取り上げてきていることについて注目される。

また、福岡委員長が日韓トンネル研究会の顧問に就任することも第九回通常総会で承認された。

そのほか、今年十二月に福岡市のホテルで開催された日韓トンネル研究会九州支部の通常総会の中、十月に開く北部九州二県知事サミット、韓国開港地地域長との初の日韓首脳サミットで「日韓トンネル構想」を議題として取り上げ、その検討を促すこと、このプロジェクトに対する地元

の意欲が強い。

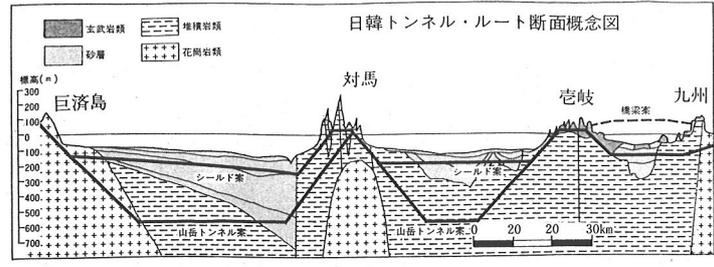
提唱から10年



日韓トンネル研究会第9回通常総会で講演する持田豊氏

世界最大の橋下トンネル... 日韓トンネル研究会第9回通常総会...

記念講演 英仏の現状と日韓の今後... サントリーコンサルタント顧問社長 持田豊



ルート上「精査」段階 技術者同士の定期協議開催へ

日韓トンネル研究会... 研究会は、今年度の調査... 研究会は、今年度の調査...

研究会の今後の展望... 研究会は、今年度の調査... 研究会は、今年度の調査...

研究会の今後の展望... 研究会は、今年度の調査... 研究会は、今年度の調査...

夢 実現へ新体制で再出発

研究会の今後の展望... 研究会は、今年度の調査... 研究会は、今年度の調査...

2国間の協調がカギ 高速大量輸送が可能に... 研究会は、今年度の調査... 研究会は、今年度の調査...

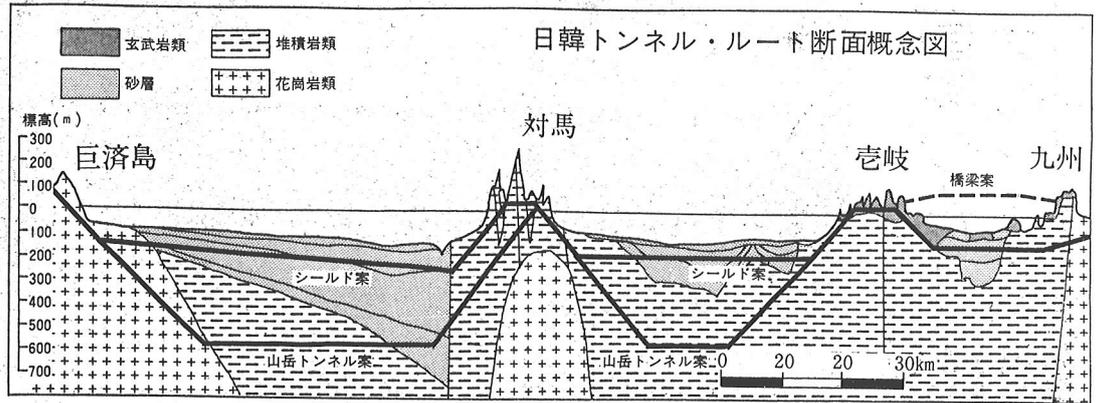


世界の海峡横断計画... 研究会は、今年度の調査... 研究会は、今年度の調査...

Advertisement for various engineering and consulting firms including Sumicon, Pasco, and others, with contact information and services listed.

Large advertisement for joint development between Japan and Korea, featuring logos for Sumicon, Pasco, and other firms, with the headline '日韓共同開発実現に向け前進!'.

提唱から10年



ルート上「精査」段階

技術者同士の定期協議開催へ

夢 実現へ新体制で再出発

日韓議員も
実現へ努力

参議院議員
野沢 太三

昨年の日米構造協議の結果、今後の公共事業の十年計画として、過去十年間の五割増し以上の投資が決定し、今年はその初年度としてスタートしました。



海岸戦争その他で、すいぶん出費もありましたが、やはり二十一世紀にかけての十年間は、着実に日本の社会資本を整え、将来にわたっての準備をする時であり、基礎的な投資こそ重要であるという考えが定着してきたようです。

こうした中で、国際的な動きに目を転ずれば、ドーバー海峡トンネルが、パイロットトンネルに次いで本坑の貫通に至り、九九年の暮れには開業できる見通しが立ったことは、大きな出来事だと思います。工事中、私も同海峡トンネルの切羽まで行く機会に恵まれました。

最近、韓国と北朝鮮で話し合いが進められ、日朝の交渉も動きが急になってきました。昨年来日した盧泰愚大統領も、その通商の結びの中で日韓トンネルに結びついていました。私も日韓議員連盟も、その言葉を受けて、皆さんとともに本計画の一部のわき水があったもの、大きなラフルもな、八九年八月に予定の掘削を終了した。

その後、コンクリートによる二次掘削工事、対馬西海側の飯原町阿連での斜めボーリング、将来のパイロットトンネルとなる鎮西町での第一期の調査斜坑(深さ三百メートル)の掘削と、工事着上に向けての切羽と坂みを進めている。

新しい段階に入ったプロジェクトを呼応して、日韓トンネル研究会も組織体制を刷新し、東京第十四回理事会(平成三年二月一日開催)を開催され、第十五回理事会(同五月九日開催)で承認を受けた委員

会の三部会に分けられ、このプロジェクトを各界各層に分かりやすく啓蒙・PRすることが最大の使命。

一方、技術委員会は従来の技術部会(第二)地形・地質・水理など、第三)路線・設計・施工など、第四)環境、気象、海象など)を二つに統合。過去八年間におけるこれまでの調査・研究成果を取りまとめるとともに今後の課題を明確にし、それに対処する。

部会制度廃し
2委員会に
佐賀県西町から彦根、対馬を経て韓国・巨済島へ。その巨済島から釜山に入る日韓トンネルは、総延長二百三十五。わが国の青函トンネルや英仏海峡トンネルの四倍以上の長さである。

同プロジェクトの推進母体である国際ハイウェイ建設事業団は、一九八六年十月に鎮西町で掘削を開始。第一期調査斜坑(二百十メートル)を完了し、翌年六月に終了。八八年九月からは、海水灌入の掘削となる第二期工事が始まりました。

その後、コンクリートによる二次掘削工事、対馬西海側の飯原町阿連での斜めボーリング、将来のパイロットトンネルとなる鎮西町での第一期の調査斜坑(深さ三百メートル)の掘削と、工事着上に向けての切羽と坂みを進めている。

新しい段階に入ったプロジェクトを呼応して、日韓トンネル研究会も組織体制を刷新し、東京第十四回理事会(平成三年二月一日開催)を開催され、第十五回理事会(同五月九日開催)で承認を受けた委員

会の三部会に分けられ、このプロジェクトを各界各層に分かりやすく啓蒙・PRすることが最大の使命。

一方、技術委員会は従来の技術部会(第二)地形・地質・水理など、第三)路線・設計・施工など、第四)環境、気象、海象など)を二つに統合。過去八年間におけるこれまでの調査・研究成果を取りまとめるとともに今後の課題を明確にし、それに対処する。

研究会総会での有識者の声

参議院議員 元運輸大臣
長谷川 峻

私が運輸局長だった時、視察に行ったことがありません。当時の日本はまだ技術力も乏しく、スライス掘削機を使って、切羽の石を砕いて、それを飾りながら、開通の日を待ちわびていました。



突然運輸大臣になった時に、トンネルが開通することになり、そこに新しい友情が生まれることになるでしょう。

記念講演

英仏の現状と日韓の今後

サンコーコンサルタント(株)副社長 持田 豊



日韓トンネル研究会第9回通常総会で講演する持田豊氏

世界最長の海峡トンネルである青函トンネルは現在、開業後三年を経過して予想以上の輸送量を示している。トンネル貨物については、輸送時間が六・七時間も短縮されたことから、予想量の二倍に達する伸びを挙げ、生鮮食品品類は東京、大阪の市場への入荷

が一日早まるようになった。ただし、トンネルの両側が単線のため、輸送の許容量に限りがあるようだ。これは将来、新幹線が開通すれば旅客がこちらに移るのでも、ある程度解決すると思われる。

一方、英仏海峡トンネルはすでに、昨年十二月一日にサービストンネルが貫通している。一九八七年の掘削は、なかなか予定通りに進捗しなかったが、八年で、スロッドアップし、目進二メートル記録するほどになった。

2国間の協力がカギ

高速大量輸送が可能に

た。青函トンネルの場合は、最大海底トンネルとして世界で初めての試みであること、また地質条件がかなり悪いことから、最初から技術開発に主眼が置かれていた。掘れるかどうかという可能性自体が最大の課題だったわけだ。

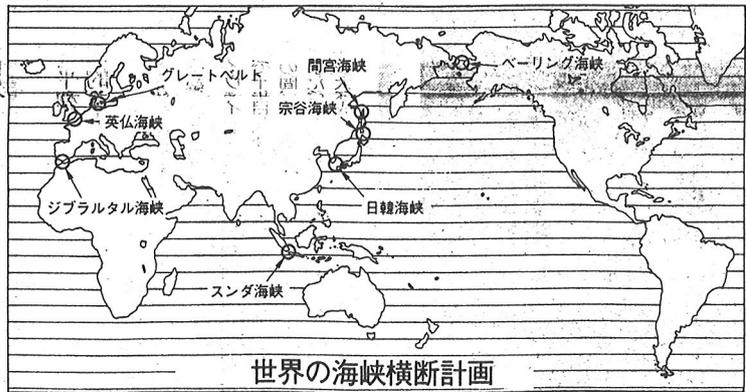
これに対し、英仏トンネルは、自然条件に大変恵まれており、チョークマルという工学的に最も掘削しやすい地層の中をルートが走っている。そのため英仏

ったからである。特に、安全性に対する考え方は、東京・ワシントン、東京・ロンドン間は、いずれも三時間ほどで結ばれるだろう。超伝導素材の送電線、光ファイバーケーブル、各種のバイパスなどによる共同溝を併設することも考えられる。

海峡横断計画も世界各地で考えられている。シラタル海峡は距離約六十五キロだが、トンネル案と橋梁案の両方が出ている。インドネシアのジャワ島・スマトラ島間のスマタ海峡は

る。現在、コンコルドを上回る成層飛行の極超音速機が開発されている。これに匹敵するものとして、トンネル内を真空に近い状態にして、高速リニアモーターカーを通すことが考えられている。空気の抵抗が少なく、速度も可能。これは大量輸送にも向いており、騒音問題も同時に解決することができ。

もしマッハ四で移動できるとしたら、途中に島



世界の海峡横断計画

官民一体の事業展開へ

この新しい組織のもと、同研究会は今後、プロジェクトを採る海流の国会議員連盟の結成や、国民に対する啓蒙活動の展開、日韓両国で交互に報告会やシンポジウムを開催する、政治・国民・外交レベルでの実現促進策を行っていく予定だ。

また現在、対馬から韓国に向けての調査航路の掘削に向け、すでに本格的な基礎工りが始まった。これまでの地形や地質、環境などを調べる一環から、いよいよトンネルの設備に入ってきた。

国際ハイウェイ構想の一環として世界の耳目を集め、提唱以来十年目にして動きが活発になってきた日韓トンネル。

これまでの「観音」で地質と技術の両面で実現性が高いとの調査結果が出たけれど、夢のプロジェクトが事実となるには、日韓両国の政府レベルでの取り組み方をそれぞれが官民一体の事業展開が今後の課題となる。

持田 豊氏
昭和三年奈良県生まれ。京都大学理学部卒業後、二十九年国鉄入社。三十九年鉄建公団へ。五十九年の退職まで青函建設局長などを歴任。現在は英仏トンネル技術顧問。